

「高齢心不全患者の評価と対応」

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部教授 松尾 善美

現在、100万人規模とされる我が国の高齢者に多い慢性心不全は、患者数が今後急速に増加し、心不全パンデミックを引き起こすとされている。本症は、コモン・ティーズ（ありきたりの病気）で急性増悪による再入院を繰り返し、根治が望めない進行性かつ致死性の悪性疾患であり、その大半が心疾患以外の併存症を有している。そのため、医療・介護スタッフによる多職種での施設や地域での管理・支援体制が患者の抱える医学的・社会的問題に対し、重要な役割を果たすことに他ならない。したがって、心不全に対する基本的知識に基づく評価と対応が不可欠になっている。本講演では、基本的な心不全の理解から評価、およびリスクの発見とそれらに対する対応について解説する。さまざまな問題を抱える心不全患者に対するリハビリテーションとケアが生活の質と生活の場に軸を置いた慢性管理が実現することを期待したい。

講師略歴

1984年	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院卒業
1984年-1987年	八尾徳洲会病院、岸和田徳洲会病院
1987年-1990年	国立療養所刀根山病院
1990年-1995年	国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院
1993年	米国マサチューセッツ総合病院にて臨床研修（厚生省より派遣）
1995年-2005年	大阪大学医学部附属病院
2004年	神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了、博士（保健学）
2005年-2011年	神戸学院大学総合リハビリテーション学部准教授
2011年-	現職

上級心臓リハビリテーション指導士、専門理学療法士（内部障害系）ほか

日本心臓リハビリテーション学会評議員・編集委員・近畿支部幹事
国際心臓呼吸理学療法士連盟執行役員（日本代表）
日本心血管理学療法学会運営幹事